

# 特別活動

松田 隆之

## 学級や学校の生活をよりよくするための活動を充実させ、 自己有用感を高める特別活動の展開

### I 特別活動研究の方向性

#### 1 主題設定の理由

特別活動においては、児童同士の話し合い活動や、児童が自主的、実践的に活動することを特質としてきました。特別活動における「主体的・対話的で深い学び」とは、各活動、学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の学習過程の中での質の高い学びを実現することです。それは、特別活動の各活動、学校行事の内容を深く理解し、それぞれを通して資質・能力を身に付け、小学校卒業後も能動的に学び続けるようにすることでもあります。

これまでの本校の研究では、能動的に問題発見、合意形成、協力実践できる力を自治的能力と押さえ、研究を進めてきました。主に学級活動を中心として取り組む中で、問題発見から合意形成及び意思決定、協力実践に至るまでの学習過程の在り方を構築し、自己評価の蓄積から自らの成長を実感することができました。一方で、決まったことの詳細を練ったり、振り返りをしたりする時間の確保と、相互評価によるお互いの認め合いの場の設定が十分ではなかったため、次の活動へ向けた追究意欲の持続に課題が残りました。さらには、学級活動以外の各活動と学校行事において、研究の検証をする機会を充実させていく必要があります。

本校の児童は、学校行事や児童会活動、クラブ活動に熱心に取り組み、教職員も児童の主体性が発揮される活動となるように指導をしています。また、学級活動では、児童が中心となって進める学級会に計画的に取り組み、学級生活の充実と向上を目指しています。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。特別活動における探究とは、学級や学校の生活をよりよくするために、問題の発見・確認、解決方法の話し合い、決めたことの実践、振り返りまでの一連の学習過程のサイクルを繰り返すことと押さえました。繰り返すためには、事前、本時、事後の活動を一つの活動とし、そこで得た力を次の新たな活動につなぐ原動力とすることが求められます。そのためには、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れることを通して、社会性の基礎となる自己有用感を高める必要があると考えました。

そこで、研究主題を「学級や学校の生活をよりよくするための活動を充実させ、自己有用感を高める特別活動の展開」と設定しました。「学級や学校の生活をよりよくするための活動」とは、よりよい集団や学校生活をつくることを目的に、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行う活動のことです。「自己有用感を高める」とは、児童が自発的、自治的な活動を通して、互いに協力し合い認め合う中で、自分が他者の役に立つ存在であることを実感し、自分のよさや可能性を発揮して自信をもつことと、他者との関わりや評価によって自分が必要とされていることを実感することです。

#### 2 目指す児童の姿とその具体

##### 自発的、自治的な活動を通して、集団の中で自分の役割を果たし、認め合う児童

「自発的、自治的な活動」とは、児童自ら学級や学校の問題を発見したり、集団としての意見を合意形成したり、決まったことを実践したりすることです。

「自分の役割を果たし、認め合う」とは、一部の児童だけでなく、全ての児童が役割を果たすこと（貢献）を経験し、活動の成果を児童相互に認め合い、集団の一員として認められている（承認）という満足感や充実感、連帯感などをもつことです。また、このような支持的風土の醸成と並行して、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践ができる子の育成を目指します。

## II 研究内容の具体

### 1 学習過程と本時の活動内容の工夫

特別活動において育成を目指す資質・能力は、事前から事後までの一連の学習過程の中で育まれるものです。したがって、それぞれの学習過程においてどのような資質・能力を育もうとするのかを明確にした上で、意図的・計画的に指導に当たることが求められます。

自己有用感を高めるためには、一連の学習過程に追究の意欲をもたせ貢献へとつなげる必要があります。そのためには、提案理由や児童の実態を基にして、議題の選定や題材の設定を行うことが大切です。

そこで、学級活動（１）では、議題によって１単位時間の基本的な学習過程のどこに重点を置いて話し合うのかを明確にして時間配分します。また、学級活動（２）・（３）では、学級や個々の児童の実態に合わせて必要感に応じた題材を設定します。さらには、全体で合意形成して決まったことに対して、次に個人の意思決定を必要とする「学級活動（１）と（２）・（３）を融合させた本時」の授業の流れについて研究を進めました。

- 提案理由を基にした（１）の議題の選定と実態を基にした（２）・（３）の題材の設定
- 5W1H（Why/What/Who/Where/When/How）の重点化・Howの重視
- 学級活動（１）と（２）・（３）を融合させた本時の在り方

### 2 自発的、自治的な活動を充実させる指導の工夫

特別活動において自己有用感を高めるためには、その活動が自発的、自治的な活動であることが重要な要素です。そのために、児童がよりよい学級や学校の生活を築くための問題を発見したり、集団（個人）としての意見をまとめたり、友達と協力して（または個人として）実践したりする過程における適切な指導や環境づくりについて研究を進めました。

- 話し合い活動における指導助言の工夫
  - ・指示的な助言
  - ・問題解決のための助言
  - ・援助や補足的な助言
  - ・再考を促す助言
  - ・承認や激励の助言
- 合意形成や意思決定の工夫
  - ・合意形成の在り方【学級活動（１）、児童会活動、クラブ活動】
  - ・よりよい解決方法、努力事項、「なりたい自分」等の話し合い活動の場の工夫【学級活動（２）・（３）】
- 思考の可視化・操作化・構造化の工夫
  - ・賛成反対マーク
  - ・小黒板
  - ・短冊
  - ・思考ツール
  - 等

### 3 自己有用感を高める評価の工夫

自己有用感を高めるためには、一連の学習過程の中で、集団の成員相互による相互評価や集団の成員外からの他者評価を取り入れ、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れることが大切です。

そこで、自己有用感を構成する要素として、「貢献」と「承認」を関連付けました。「貢献」とは、「他者や集団に対して自分が役に立つ行動を示している」という状況であり、「承認」とは、「他者や集団から自分の存在が認められている」という状況と押さえました。「貢献」を一連の学習過程に位置付け一人一人が活躍できる状況を作り、それを基にした「承認」（他者評価）と自己評価によって自己有用感を高める研究を進めました。

#### < 1年次研究の重点 >

- ・提案理由を基にした（１）の議題の選定と実態を基にした（２）・（３）の題材の設定
- ・本時と事後の活動における承認（他者評価）の効果の検証

### Ⅲ 研究実践

#### 6年生実践 『学級ポストから（学級や学校における生活づくりへの参画）』

実践のテーマ：1年生への絵本の読み聞かせをするための話し合いを通して  
自分の役割を明確化し、事後の活動に向けて意欲を高める学習

##### 1 研究授業のねらい

本活動では、1年生に読み聞かせをするための取組内容について考え、積極的に意見を述べたり、合意形成をしたりすることを通して、自己の役割を明確にし、集団活動に自発的に参画しようとする態度を育成することをねらいとしました。指導に当たっては、国語の教材「1年生に向けて物語を書こう」で書いた物語を「どのような設定で1年生に楽しんでもらうか」を話し合い、役割分担等の細かいところまで決めることとしました。考えられる話し合いの視点として、①いつやるのか（日にちや時間帯）②全員で同時にやるのか順番でやるのか③全作品を読み聞かせるのかいくつか選ぶのか等を設定しました。提案理由を土台とし、相手意識や目的意識を大事にしなが話し合いをすることで、質の高い合意形成ができるように働き掛けました。また、次の課題解決（学級会等）に意欲的につなげるために、自己有用感を高めることが重要と考えました。そこで、本時と事後の活動の後の計2回の相互評価と1年生からのお礼の手紙を計画し、「貢献」と「承認」の効果を検証しました。

##### 2 活動の指導計画

時	主な活動内容	自己有用感を高める児童の姿
事前	①計画委員会 学級ポストに出された提案から、今後学級会の議題とするものをいくつか決定する。 ②事前の意見交流 学級ポストに投函された内容を掲示し、ミニ学級会で交流する。また、相談ボードに決定した議題を掲示し、自由な発言を求める。 ③自由な思いの交流 相談ボードでの意見交流の様子から、学級会で話し合うべき内容を全体が想起する。	学級内での課題や自分たちの生活をよくするために必要なことを見いだして学級ポストや相談ボードを利用して構想している姿。
本時の活動	<学級活動> ・議長団は、事前調査を基にして決定する。 ・議題について、話し合いの視点に基づいて話し合い、1年生への読み聞かせ会の内容を決定する。 ・学級会の振り返りをする。	友達の考えを認めたり、よさを生かしたりしながら、合意形成を図り、お互いの頑張りを認め合う姿。
事後	<1年生への読み聞かせ> ・学級会で決まった内容を1年1組の担任の先生に伝えて趣旨を理解していただき、日程を調整し実践する。 ・活動の振り返りをする。	ねらいの達成度合いを考えたり、よい点や改善点を見付け出したりするとともに、新たな課題を設定している姿。

### 3 本時の活動

#### (1) 本時の目標

1年生に読み聞かせをするための取組内容について合意形成し、自己の役割を明確にするとともに、友達の頑張りを肯定的に評価している。

#### (2) 本時の展開

活動の流れ	活動内容と主な活動	研究との関わり・留意点
事前の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級ポストや朝・帰りの会で話し合いたいことを提案する。</li> <li>○計画委員会が、議題として取り上げるものを決定する。</li> <li>○決まった議題についての意識調査をする。</li> <li>○ボード上で簡単な意見交換をする。</li> </ul>	<p>◇提案理由を基にした議題の整理と選定とHowの重点化</p> <p><b>研究視点1</b></p>
本時の活動 1 意識化・共通化  2 追求・解決 (1) 解決に向けた視点の表出  (2) 内容を決定する話し合い  3 実践への意欲化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生への読み聞かせの目的、意見交換の経緯について確認する。</li> <li>◎議題の提示</li> </ul> <p style="text-align: center;">1年生への読み聞かせ会を計画しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○提案理由の確認</li> <li>○事前に決まっていることの確認</li> <li>○話し合う視点について出し合う</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日程や時間帯               <ul style="list-style-type: none"> <li>・何月何日頃に行うのか</li> <li>・朝なのか授業時間なのか</li> </ul> </li> <li>②読み聞かせの形態               <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体でやるのか、グループでやるのか、個人でやるのか</li> <li>・全員の作品を使うのか、一部の児童の物を使うのか</li> </ul> </li> <li>③順番等の細かい運営方法 など</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○出された視点についてグループ及び全体で交流する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・分類したり合わせたりしながら、折り合いを付けていく。</li> </ul> </li> <li>○決定したことを確認し、学習の振り返りをする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価と自己評価を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の授業で書いた物語は、全員が1作品仕上げています。</li> <li>・決まったことは、1年1組の担任の先生にお願いするが、もしかしたらできない場合も考えられる。</li> <li>・冬休みまでにはやり遂げる。</li> </ul> <p>◇話し合い活動における指導助言の工夫</p> <p><b>研究視点2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの前後及び必要に応じて適切なタイミングで助言する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>イ【思考力・判断力・表現力等】 読み聞かせ会の内容について話し合い、多様な意見を認め合いながら合意形成をしている。 (グループや全体での発言・観察)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総評</li> </ul>
事後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年1組の担任の先生への提案や依頼の仕方を検討する。</li> <li>○朝や帰りの会等を活用して進捗状況の確認をし、役割分担をする。</li> <li>○活動の成果や過程を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の活動で、称賛や励ましの声掛けをしていく。</li> </ul> <p>◇自己有用感を高める相互評価の工夫</p> <p><b>研究視点3</b></p>

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

○1年生に読み聞かせをするための取組内容について、自分なりの考えをもって合意形成に関わり、友達の頑張りを肯定的に評価している姿。

## 4 授業の実際

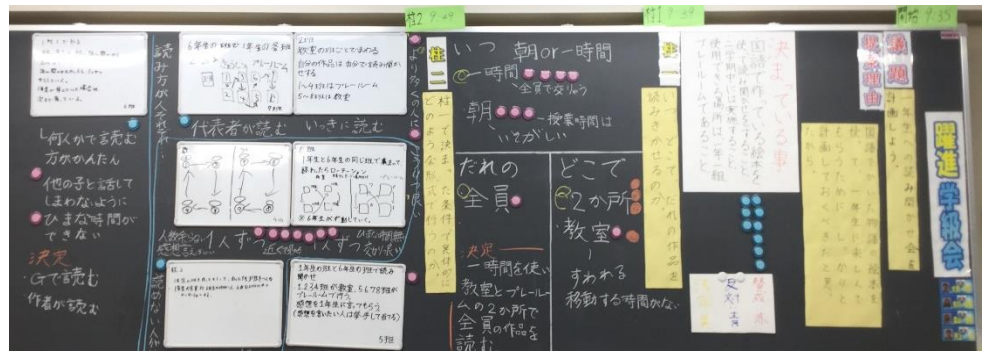
### 提案理由を基にした議題の整理と選定と How の重点化

「学級ポストから」の活動では、最初にポストに集まった議題案の中から計画委員会が議題候補としていくつかを選定して全体に提示しました。全体の間では、提案理由を吟味し、様々な視点からそれらを議題として取り上げるかどうかを検討し、議題として扱われないものは協議の上、友の会や係、担任等に対応を振り分けます。そこで、今回議題として取り上げない「持ち物や忘れ物」については、生活委員会の取組に一任することとなりました。議題として取り上げることになった本実践の議題「1年生への読み聞かせ会を計画しよう」では、「何をするか」がはっきりと決まっているので、「どのようにするか」に焦点化しました。話し合う視点としては、①いつやるのか（日にちや時間帯） ②全員で同時に読み聞かせるのか順番でやるのか ③全作品を読み聞かせるのか何作品かを選抜するのか等です。

作品作りにかけた思いや時間の制約、場所の設定などを考慮しながらグループや全体で最善の方法を考え合意形成を図り、事後の活動に向けて大体の自分たちの役割を明確にできました。

議題	○今すぐ解決すべき議題か	○学級の全員に関係のある議題か	○自分達で解決できる議題か	○解決できない議題か	○一時間以上使わないとよくなる議題か	○学校(学級)のくらしがよくなる議題か	どこで解決するか
② 学級集会	×	○	○	○	○	○	11/21(4班)
③ 1年生の読み聞かせ	×	○	×	△	×	○	11/11(3班)
④ 給食ルール	○	○	○	○	○	○	11/2(8班)
⑤ 学習態度	○	○	○	○	○	○	10/30(2班)
⑥ もち物・忘れ物	○	○	○	△	○	×	10/28(生活委員会)
⑦ 言葉づかいについて	○	○	○	○	○	○	

【議題を選定するための一覧表】



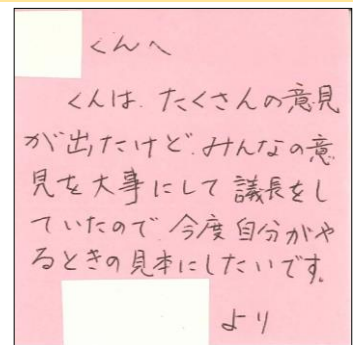
【書記の児童による本時の板書】

### 自己有用感を高める相互評価の工夫

本活動では、本時と事後の活動の後の計2回の相互評価と1年生からのお礼の手紙（他者評価）を受け取る機会を設定しました。

本時の相互評価では、決まっている班内の相手を1人と全体から自由に1人以上選んで相互評価を付箋に書きました。何人か書いた内容を発表した後に、相手のシートに付箋を貼りに行きました。議長団を含め、学級会への自分の関わり方を評価してもらえたことで、次の活動への意欲を高めることができましたと考えます。また、1年生への読み聞かせの数日後に、1年生からお礼の手紙を受け取りました。手紙を読んだ後に書いた活動の振り返りでは、1年生への感謝の思いの他に、「またこのような企画を考えて他学年に喜んでもらいたい」「次の学級会でも学級や学校がよりよくなることをしたい」と書いた児童が半数近く見られました。

このことから「貢献」と「承認」を要素として構成した自己有用感の高まりは、次の新たな活動につなぐ原動力とすることができたと考えられます。



【相互評価の付箋】

ぼくたちが計画をして、実行したもので、1年生を涼くさせることができたので、とてもうれしかったです。このような学級会で、これから役に立つことを計画し、実行したいです。

【1年生からの手紙を受け取った後の振り返り】

## IV 1年次研究の成果と課題

特別活動では、研究テーマを「学級や学校の生活をよりよくするための活動を充実させ、自己有用感を高める特別活動の展開」と設定し、「学習過程と本時の活動内容の工夫」「自発的、自治的な活動を充実させる指導の工夫」「自己有用感を高める評価の工夫」の3点を中心に研究を進めました。

1年次研究では、「提案理由を基にした議題の選定」と、「本時と事後の活動における承認（他者評価）の効果の検証」を重点として研究を進めてきました。

### 1 研究の成果

- ポストに入った議題案をまず計画委員会がいくつかを選別し、次にそれを全体場で提案理由を基に様々な視点から吟味したことは、議題として取り上げるかどうかの検討を含め、学校や学級をよりよくしたい思いを共有することにつながりました。
- 「何をするか(What)」を事前のアンケートや計画委員会の話合いの段階で決めておくことで、「どのようにするか(How)」を重点的に話し合うことができ、事後の活動において学級の思いを反映させた取組ができました。
- 「貢献」を一連の学習過程に位置付け、一人一人が活躍できる状況を作り、それを基にした「承認」（相互・他者評価）をすることで、これら2つを要素として構成された自己有用感が高まり、次の新たな活動につなぐ原動力とすることができました。

### 2 今後の課題

- 「貢献」と「承認」のサイクルを学級活動(1)で定着させるとともに、それ以外の活動にも位置付け、より探究的な特別活動を展開させていくことが必要です。
- 学級活動(3)を中心にキャリア教育を推進していくために、試行しながら教育課程にキャリアパスポートを効果的に位置付けていく必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領 文部科学省 東洋館出版社 平成29年3月
- 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年6月
- 小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年6月
- 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編  
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成29年9月
- 生徒指導リーフ『『自尊感情』？それとも『自己有用感』？』  
文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 平成27年3月
- 初等教育資料No.977「特集Ⅱ 新学習指導要領に向けた指導の在り方〔特別活動〕」  
文部科学省 東洋館出版社 平成31年1月
- 道徳と特別活動vol.36 No.6 文溪堂 令和元年8月
- 道徳と特別活動vol.36 No.7 文溪堂 令和元年9月
- 道徳と特別活動vol.36 No.8 文溪堂 令和元年10月
- 自分を鍛え、集団を創る！ 特別活動の教育技術 杉田 洋 小学館 平成25年3月
- 小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別活動 杉田 洋 東洋館出版社 平成29年12月
- 小学校教育課程実践講座 有村久春編著 ぎょうせい 平成29年12月
- 特別活動の理論と実践 中園大三郎 松田修編著 学術研究出版 平成30年3月
- やさしく学ぶ特別活動 赤坂雅裕 佐藤光友編著 ミネルヴァ書房 平成30年3月
- 特別活動 田沼茂紀 北樹出版 平成30年4月
- 特別活動の理論と実際 河村茂雄 図書文化 平成30年10月